

### 第32回 自動車整備技術の高度化検討会 — 議事概要 —

#### ■ 議事 (1) 令和 7 年度困りごと調査の結果と内容

発言者	発言内容
事務局	○ (資料 2 「整備マニュアル」「純正スキャンツール」の提供に係る対応)、資料 3 「令和 7 年度困りごと調査」結果」について説明)
古川委員	○困りごとの窓口を設けるのは大変いい取組みと思うが、今後事務局の手が回らなくなる可能性もあるので、生成 AI を介在させて困りごとのデータログを取れるような仕組みを作れるとより便利ではないか。
事務局	○生成 AI は我々も業務で使う場面が増え有用であると実感している。様々な活用可能性があるため勉強させていただきたい。
廣瀬委員	○「その他の困りごと」はどのような内容が多いか。
事務局	○整備マニュアルの提供方法等に関する改善提案が多い。これらの内容についても分析を行っており、その結果を資料に記載している。
廣瀬委員	○今回提案いただいたような施策が実施されると、「その他の困りごと」も減っていく認識か。
事務局	○その認識である。
自工会	○自工会としては、必要な情報とツールを提供していく義務があるため、もし足りないところがあれば具体的な情報を窓口にお寄せいただき、今後も引き続き法令遵守で取組んでまいりたい。
自工会	○各社内で寄せていただいた情報に対して詳細調査・改善する際は、具体的にどのようなことを言われたのが重要となるため、情報提供については結果だけでなく交わされた会話の内容も把握できればいい方向に向かうと思う。
事務局	○国としても抽象的な議論では対策が進められないため、関係者と連携し、具体的事案の内容に基づいて現場の困りごと解決に取り組むたい。
JAIA	○輸入車に関しては情報開示を行っているもののヒットしにくいとの声があるので、アフターセールス委員会で検討し対応したい。
日整連	○FAINES のマニュアルは基本的に 2004 年以降の車両を掲載対象としており、それ以前のはデータ化されておらず、販売台数が多い車のマニュアルをスキャンして掲載している状況である。そのため、もし需要が多い車があれば具体的な車名を教えていただき、追加掲載も検討したい。 ○閲覧環境については、マルチブラウザ対応に向け、データをメーカーより提供いただく方向で調整を進めており、近いうちに改善する見込み。
国交省	○FAINES について、我々も連携して整備事業者が使いやすい環境づくりに取り組ませていただく。

	○JAIA の丁寧な取組みにも感謝しており、もし事業者から何か声があがれば改善に向けて一緒に取り組ませていただく。
須田座長	○今ひと通りご意見を頂き、基本的に今回の案で合意いただいたということかと思うので今後も進めていただければと思う。

## ■議事 (2) スキャンツールの機能向上に向けた取組み

発言者	発言内容
事務局	○(資料4「スキャンツールの機能拡充に向けた進捗状況(「標準仕様のあり方検討WG」報告)」について説明)
廣瀬委員	○純正スキャンツールを使うシーンが多くなると、全国3地域だけでは済まなくなる可能性があるのではないかと。
事務局	○現時点では純正スキャンツールでなければ対応できない作業がどれだけあるか未知数のため、まずは試験的に導入先を3か所とした。令和8年度は試験導入を通じて当該作業のニーズを確認し、その結果を踏まえたうえで次の年度の体制を考えていくことを想定している。
廣瀬委員	○まず開始してみてどれくらい純正スキャンツールでなければできない作業があるかを把握したうえで、必要に応じ拡大を検討する流れと理解した。 ○標準仕様スキャンツールの新スキームについて、メーカー側のバージョンアップで OBD 検査の項目が増えた場合にも対応できると考えてよろしいか。
事務局	○ご指摘の内容は、購入した自動車が、使用過程において、OTAにより OBD 検査の対象機能(装置)が追加された場合、標準仕様スキャンツールの新スキームではどのように対応する(できる)のか、という認識でよいか。
廣瀬委員	○そのとおり。OBDに関係するようなバージョンアップがOTAで実施されたときにこの枠組みで大丈夫かどうか。具体的には、OTAでバージョンアップされた場合、OBD検査で対応されることはあるのか。
事務局	○標準仕様スキャンツールの新スキームの対象車両については、サイバーセキュリティの基準が適用される自動車とほぼ一致していることから、分かりやすさの観点から OBD 検査対象車に限定している。OBD 検査対象外車が、OTAにより機能追加されたからといって、直ちに OBD 検査対象になることは想定していない。 ○なお、車両が OTA によりバージョンアップされた場合は、純正スキャンツールも当然ながら当該バージョンアップに対応されるため、OTA でアップデートされた自動車であっても適切な整備が可能な環境が整うのではないかと考えている。
古川委員	○OTAによるバージョンアップに対応するためにも、汎用スキャンツールのシステムの構造は、拡張可能なものとするのが重要と考える。

事務局	<p>○汎用スキャンツールはツールメーカーごとに様々な仕組みのものがあり、現時点で国側がプラットフォームの仕様や要件を定めることはしていない。自動車メーカーから正式に提供された OBD 情報をベースに開発され、正しく診断ができる標準仕様スキャンツールの開発を促進・普及させることで、専門工場の負担を下げたいと考えている。まずは対象の OBD 情報を整理する等、標準化に向けた取組を進めているところである。</p> <p>○システムの拡張性・汎用性については現時点でまだ議論できていない。共通的な機能を作り、汎用性を持たせると言うアイデアもあると思うが、ツールごとに機能の強みを持たせる等、ツールメーカーのビジネス的な側面もある想定のため、引き続き勉強していきたい。</p> <p>○純正スキャンツールについては OEM の方でいろいろな議論、判断があるものと承知している。いずれにせよ OBD 情報・スキャンツールの標準化と、スキャンツールの拡張性・汎用性についてはそれぞれ論点があることを踏まえたうえで勉強していきたい。</p>
自機工	<p>○ツールメーカーが開発したツールの動作確認のため純正スキャンツールを購入することについて、従来の運用ルールで決められた内容のはずだが、自動車メーカーから断られることがあると聞いている。新スキームの運用開始に当たり、そのような目的で購入可能か改めて確認をお願いしたい。</p>
事務局	<p>○昨年 3 月に公表した新スキームのアウトラインでは、検証用の純正スキャンツールの提供について明記はしているが、運用上の詰めが不十分な点が考えられるため、具体的な問題点を踏まえ、引き続き議論していきたい。</p> <p>○念のため確認だが、今のご質問は標準仕様スキャンツールの新スキームに沿って OBD 情報を買ひ、その情報を基にツールを開発した場合が対象であるとの認識でよいか。</p>
自機工	<p>○そのとおり。</p>

■議事（3） 人材確保対策に向けた取組み

発言者	発言内容
事務局	<p>○（資料 5 「人材確保対策に向けた取組み（「自動車整備の高度化に対応する人材確保に係る WG」報告）」について説明）</p>
廣瀬委員	<p>○資料 3 ページに記載がある基本的な調査の項目、さらに詳細化した細かい項目などを WG では議論しており、その項目に従って調査を実施する予定である。その結果はこの検討会でも改めてご確認いただきたい。</p> <p>○外国人材に関しては、2 級と 3 級の試験問題にルビを振ることについて今日の検討会でぜひ審議いただきたい。</p>
古川委員	<p>○自動車整備においてソフトウェア的な要素も増えてきた状況を踏まえ、現</p>

	<p>状の 2 級、3 級といった整備士制度自体を見直す考えはないか。</p>
事務局	<p>○最近の車の電子化等の進展に伴って整備士に求められる技能が変わり始めているのご指摘はおっしゃるとおりで、国交省としても令和元年度の法改正で従前の分解整備から特定整備制度へ変更したほか、整備士試験についても令和 9 年 3 月から開始される新試験では電子制御の部分を義務化するなどソフトウェア側にシフトしつつある。まずはこうした取組をしっかりと進め、その成果を見ながら課題等を見極めたうえで対応させていただくこととしたい。</p>
軽検協	<p>○イメージアップを図るターゲットとして、学生たちに影響を与える進路指導の先生方も加えてはどうか。</p>
事務局	<p>○我々も各地に設置した人材確保に関する協議会を通じて高校訪問等を行っており、先生方のご理解も極めて重要と感じている。教育委員会や先生方のご理解をどのように得ていくのか、どうアプローチすべきか等について議論し、課題を明確化していきたい。</p>
JAMCA	<p>○整備士を育てる専門学校の立場として、試験問題へのルビ振りがやっと実現することを大変嬉しく思う。本校の今年の入学者は、半数以上が留学生となり、数年後にはさらに留学生の割合は高まることが予想されるため、整備士を増やすにあたり非常に良かったと思う。</p> <p>○整備士になるまでは長い期間がかかるため、「イメージアップ」「認知度向上」「処遇改善」の取組については、早急にアクションを起こしていただきたい。メディアや発信力のある外部の専門家等を使い、整備士の仕事の重要性や楽しさをぜひ国としても発信していただけると嬉しい。</p>
事務局	<p>○ルビについては、頂いたご意見を踏まえ引き続き対応する。</p> <p>○認知度向上については、先のモビリティショーで小学生向けイベントを実施したところ、保護者から自動車整備士に対するイメージが変わったなどよい感触を得た。こうした取組は令和 5 年から取り組んでいるが、ご指摘も踏まえ、できることから随時早めに取り組んでいきたい。</p>
全自短協	<p>○留学生については、短期大学協会でも同様の状況であり、自校では、今年・来年と 2 級自動車整備士の受験者のうち 6 割超が留学生という状況で、今後ますます増えるのではないかと実感している。企業の努力で給料もアップしてきているので、今後の自動車整備士の増加を期待している。</p> <p>○人材確保の取組については、JAMCA 同様、いろいろなターゲットにお願いをしており、前述の企業の努力にも一定の期待をしている。</p>
須田座長	<p>○ルビは実施決定ということだが、その他の取組についても早急に進めてほしいとのお話があったので、ぜひご検討をお願いしたい。</p>

## ■議事（４） 今後の課題

発言者	発言内容
事務局	○（資料 6 「今後の課題」について説明）
古川委員	○自動車整備事業のイメージアップの方法として、自動車整備は生成 AI でもなかなか難しく、仕事を奪われにくいといったアピールの仕方もあるのではないかと。
事務局	○そういう声を頂く機会が増えている。物理的な作業を伴うことから AI 時代にむしろ必要とされる仕事であり、AI 時代であっても、交通空白や地域交通を担う自動車をしっかり提供し続けるという意味で絶対になくならない仕事であるという点について、しっかりアピールしていきたい。
須田座長	○なかなかいいご指摘を頂いた。
事務局	○今年の自動車整備士 PR ポスターの図案がまさに「AI でできない仕事がある」という内容なので、しっかりとアピールしていきたい。
廣瀬委員	○古川委員より AI や整備の高度化に関する質問を頂いたが、例えば自動車整備士を離職した人が復帰する際にどういった不安があるかなどについても、資料 5 (P.3) に記載している調査に盛り込んでいる。 ○調査対象を学校まで拡大することについても、WG でそういった意見が出ており、当該調査で対応できるものと思う。 ○調査時期についても、人材不足、後継者不足等については早急にとということだったので、すぐに調査を開始するスケジュールで WG にて議論している。
事務局	○調査を早めに行い、その結果を踏まえてまたご相談させていただく。
自工会	○人材確保は自動車業界を含めて重要な課題であり、国交省主導で進めていることに感謝する。 ○モビリティショーで取組む課題としては「最終的に整備士になってもらうためにはどうしたらいいか」であり、しっかりデータを追いつながり検討する必要があるほか、類似のイベントを全国に広げていくことも重要と考えている。皆さんと相談しながら実現していきたいのでぜひよろしくお願いしたい。
須田座長	○モビリティショー以外でどのようなイベントがあるか。
自工会	○日整連傘下の振興会において各地でイベントを実施していただいているほか、メーカーの販売店で主催しているイベントもある。モビリティショーを観に東京に来た人が、帰ってから地元でのイベントにも参加していただき、最後は整備士になっていただく、といったことが実現できるとよい。
事務局	○ジャパンモビリティショー以外にも、国交省では高校生を対象として実際に地域の整備工場の仕事体験をしてもらったり、整備工場を見学して整備士の仕事を認知してもらったりする取組みを行っている。

	○その他、アフターマーケットを対象としたイベントでも、ブースを借りてモビリティショーと類似のイベントを行った事例もある。
自工会	○自工会の中でも整備士の確保は非常に重要と認識しており、中でも処遇改善は非常に大事なことと思いつつも、実際に給与を支払うのは整備工場経営者であるため途中で議論が煮詰まってしまう。我々として、どこまで改善に貢献できるかを考えるためにも、今回の情報調査はじめ、ぜひ協力させていただきたいと思うので、よろしくお願ひしたい。
事務局	○処遇改善については、昨今の物価上昇の中で原資を確保することが重要だが、現場においてはユーザーからしっかり代価をもらうことの難しさを感じている経営者も多いことと思う。整備工場として適切な代価をもらえるような環境とは何かを含め、1つの業界にとらわれず関係者全員で課題を解決していくことが、高度化検討会の目的の1つと思っている。いろいろな意見や施策提案を頂き、関係者でしっかり取り組んでいきたい。

■その他（議論の総括等）

発言者	発言内容
須田座長	○今日は本当に有意義な議論ができたと思う。最初のほうでは整備マニュアルと純正スキャンツールに関わるいろいろな困りごとに対するご紹介と、それに対する案を皆さんでご承認いただいた。標準仕様スキャンツールの新スキームのご紹介と、それでできない可能性がある要素については純正スキャンツールの活用を検討していくことをご紹介いただいた。人材確保の取組みは早急に進めていただきたい。そして整備士試験の2級と3級についてルビを打つことが決まったことは非常に有意義なことと思う。今日の議事はこれで終わりにしたい。
事務局	○本日は長時間ご議論いただき感謝する。標準仕様スキャンツール、純正スキャンツールの取組の話、ルビの話、人材確保の話について、我々としてもしっかり勉強させていただき取組を前進させたいと思う。特に人材確保の話も標準仕様スキャンツールの話も、息が長い取組がこれからも必要になるので、改めて皆様のご協力をお願いして私の締めの挨拶とさせていただく。今後も引き続きよろしくお願ひしたい。

(凡例)

自工会：日本自動車工業会

日整連：日本自動車整備振興会連合会

JAMCA：全国自動車大学校・整備専門学校協会

軽検協：軽自動車検査協会

JAIA：日本自動車輸入組合

自機工：日本自動車機械器具工業会

全自短協：全国自動車短期大学協会

事務局：国土交通省

以上